

# 幼稚園の經營私見(二)

東京女高師附屬小學校主事 堀

七

藏

## 一

幼稚園の經營に當り自給自足をモットとなすことは蓋し止むを得ないからである。今日義務教育の中に繰込まれてゐない幼稚園であるから、たとへ公立幼稚園と雖も、十分なる經費を市町村自治團體より得ることが出来ない。さりとて別に慈善團體又は社會事業團體より十分なる補助の道もない私立幼稚園では一層自給自足を根本方針とせねばならぬ。これは幼稚園經營者にとつて誠に困難な點であると同情せざるを得ぬ。英國の如く滿五歳より義務教育となす場合には十分幼稚園教育を普及させることが出来るし、米國の如く公立小學校と同様に、幼稚園を經營すれば誠に都合がよい。また佛蘭西の如く社會事業として國家事業として、幼稚園を經營すると世話はない。しかし我が國に於ては托兒所は社會事業として幾分の補助があるが、幼稚園にはそれが無い。そして公立幼稚園でも自給自足で經營せねばならぬ現狀では眞の幼稚園教育が行はれ難い。或る場合に於ては幼稚園經營を營利とまで行かずとも、多少經營者の生活補助に充當せんとするが如きに於ては一層幼稚園經營に無理を生ずるものではないか。

幼稚園を自給自足の原則によつて經營せんとするか、勢い自給は保育料に待たねばならぬ。保育料月五圓は都會地でも高額である。ニューヨークのコロンビア大學などでは一ケ年の保育料百三十五弗、日本金の二百七十圓以上、月割二十五圓以上に相當するのであるが、それは生活費の高いアメリカのこと、我が國ではとても夢にも考へられない。東京女子高等師範學校附屬幼稚園では保育料が第一部は一ケ年金參十參圓であるし、第二部は一ケ年金十一圓であるから、先づ公立幼稚園の保育料として月當り金三圓が標準であらう。私立幼稚園で月五圓の保育料を徴收してゐる所もあるが、それは東京などの大都市ならば特別でもあらうが、一般には勿論困難な事柄である。今假りに一ヶ月金三圓の保育料を徴收して幼兒を九十人收容してゐるとして、一ヶ月の収入が二百七十圓であり、六十人收容するときは一ヶ月の収入が百八十圓である。尤も實際に於て滞納や未納が起るからそれだけの額に達しないのが普通である。

そこで六十人の幼兒を收容してゐる幼稚園に於て、保姆は少くとも二人、九十人收容してゐる幼稚園

では三人の保姆を必要とする。世には成るべく多くの幼児を收容し、保姆の數を成るべく減少して幼稚園を經營せんとする場合が少くない。これは經費の採算上止むを得ざるに出づるかも知れない。しかし眞に幼稚園保育の能率を高めるが爲めには、一人の保姆の受持能力に制限があるから幼児數の少いことが必要である。幼児を四十人以上受持つときは勢い號令をかけるやうに管理し、幼児の活動を非常に束縛せねばならぬことになる。従つて眞の保育が行はれない。東京女子高等師範學校附屬幼稚園では一組三十人となし、一人の保姆をして受持たせてゐるがこれは贅澤と見做すことが出来ない。一人の保姆の受持を三十人となすことを標準とせねばならぬ。尤も幼稚園令では一組四十人以下と規定し、一人の保姆で受持つことになつてゐる。しかしこれは最大限と見做すべきものである。

而して保姆の資格あるものを必ず採用せねばならぬ。三人の保姆中一人だけは有資格者となし、他は代用保姆で間に合はせるなどは實に「間に合せ」で、それを本體となすべきものではない。高等女學校を卒業したばかりの無資格者を代用して間に合せたり甚だしきは子守で保姆の頭數をそろへたり、高等小學校卒業者で代用させたりすることは甚だ面白くない。「幼稚園は幼児が小さいから資格などはどうでもよい。數さへそろつて居ればよいから子守で澤山です」と、幼稚園の經營者や托兒所の經營者が公言せられるのを耳にすることがある。これは誠に恐れ入つた言葉である。眞に保育をなすものではなく活動性に富んだ幼児を一室に監禁して子守に見張番を行はせるだけのものである。かくても幼稚園である

といふならば、それは名のみのものである。また「托兒所であるから幼児を預かるだけで澤山」といふ考は根本的に誤つてゐるものといはねばならぬ。「托兒所であるから保育をする必要はないのである」と考へることは誠に亂暴な沙汰と申さねばならぬ。

#### 四

長時間勤務して、身體的にも精神的にも十分の保護を要する幼児を多く保育するがためには優秀なる保姆を數多く採用して獻身的に勤務せしめねばならぬ。しかし保姆は獻身的に勤務するから待遇はどうでもよいと考へてはならぬ。女中にも及ばぬ位な待遇をなし「それであなた方は天真爛漫、無邪氣な幼児を保育するのですから、獻身的に働かねばなりません」と要求することは無理を強いるものといはねばならぬ。「それでも保姆に使つて呉れといふものがザラにありますからまあ少いとは思ふが少い程幼稚園經營がうまく行きますから。」とか、「どうも資格者は吾々のいふことを守らず、いろ／＼のことでお金をつかひますから、高等小學校位卒業した者は何も知らないから吾々のいふことをよくききますからそれを採用いたします」と得意氣に公言なさる幼稚園長や幼稚園經營者がある。しかしこれは幼稚園や托兒所で眞に幼児を保育することを目的となすものではない。幼稚園托兒所を以て生活の資料をもうけ出すことを主眼となすものではあるまいか。

眞に幼稚園を經營するならば、成るべく一組の幼兒數を二十人から二十人位に制限し、有資格者、しかも優秀なる保母を以て保育の實際を擔當せしめねばならぬ。それで六十人の幼兒を收容する幼稚園で保母二人、一人は五十圓一人は四十圓として保母の給料が月九十圓で、月收入百八十圓の半額である。また九十人の幼兒を收容する幼稚園で、保母三人、主任保母として一人が六十圓、他は五十圓と四十圓として、保母の給料が百五十圓で収入二百七十圓の半額を超過する、それで主任保母を六十圓、他を四十圓二人としても給料が百三十圓で、二百七十圓の半額に近い。月々の給料以外に年末賞與なども考へると収入の半額を保母の給料に支出することになるのである。勿論今日の私立幼稚園では保母の給料を減少し得るだけ減少するものが多く、主任保母でも四十圓他は二十五圓といふ程度にある。かくせば保母の給料は月九十圓となり収入二百七十圓の三分の一となるのである。或は幼兒九十人を收容せる場合に於て主任保母一人保母一人で、二組となすが如きことも少くない。而して五十圓の主任保母と二十五圓から三十五圓の保母となし、保母の給料を節約してゐる幼稚園も少くないやうである。概して我が國の幼稚園は保母の給料を減少することに經營者の苦心があるやうである。しかし幼稚園經營上止むを得ないとはいへ一般論としてまた幼稚園の實績を擧ぐるが爲にはあまり賛成出來ないのである。